

***天文機器資料館 (PMC) の温度、湿度 2012年の変化**

アーカイブ室新聞 (2013年1月1日 第657号) に「太陽塔望遠鏡分光器室の温度、湿度 2012年の変化」という記事を書いた。太陽塔望遠鏡の分光器室は半地下であり、除湿機を運転しなければ非常に湿度が高い。そこで除湿機を運転し、温度湿度を監視している。そのついでという訳でもないが、天文機器資料館にはアメリカ製のマンの座標測定機があり、まだメンテナンスを続けているので、スリットの下と座標測定機の近くで除湿機を運転している。温度測定は2011年3月初旬から始めた。図1が2012年の天文機器資料館の温度、湿度のデータである。除湿機についての湿度計は、80%以上はすべて80%と表示し、30%以下はすべて30%を示す。測定はおおよそ朝8時30分前後、夕刻17時30分前後の測定値である。図2が2011年のデータである。

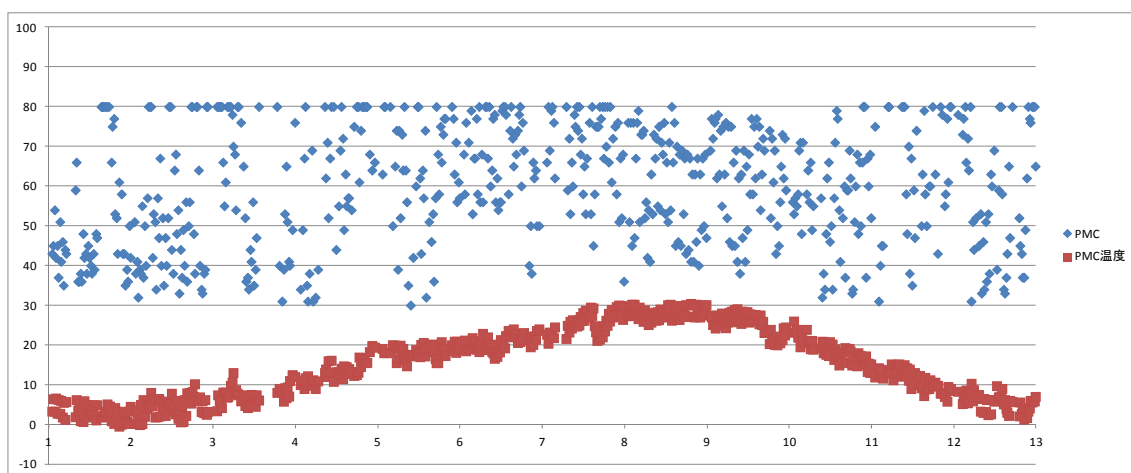


図 1

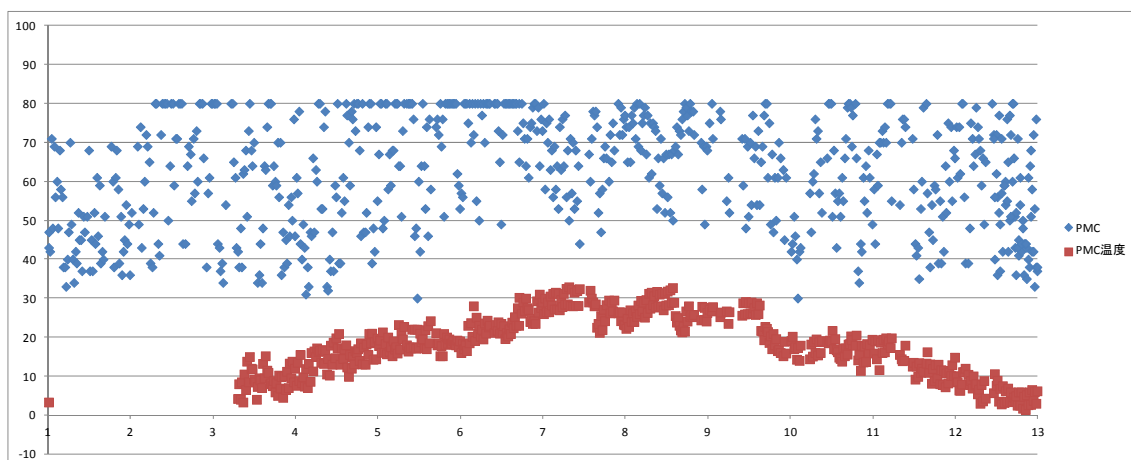


図 2

天文機器資料館の温度、湿度は一応室内の値ではあるが、自動光電子午環の観測室の値であるから外気と大差ないはずである。図 3 が半地下の太陽塔望遠鏡の分光器室のデータである。

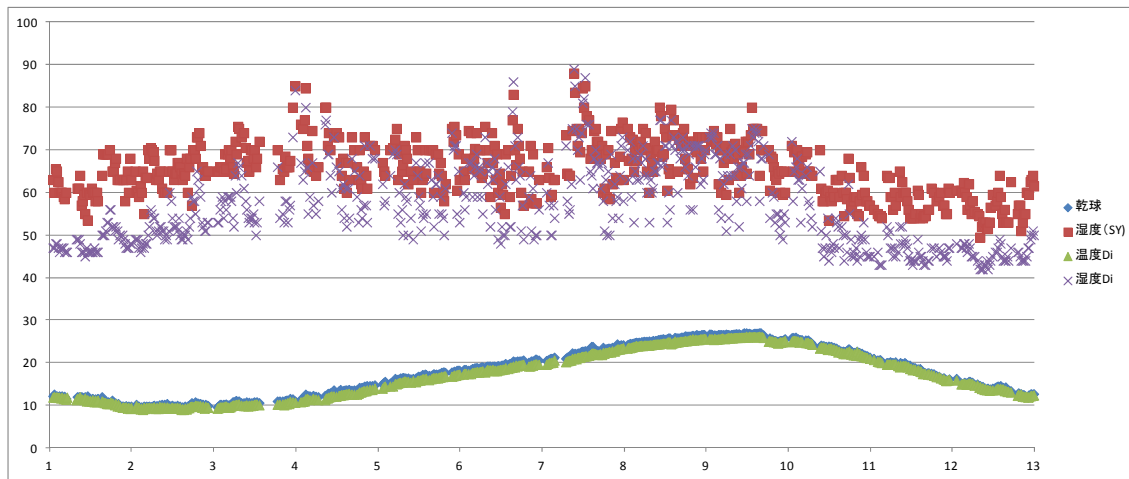


図 3

図 1 と図 3 を比べてみると太陽塔望遠鏡の分光器室は湿度管理がずいぶん効果を上げていること、温度変化も少ないことが分かる。図 3 の太陽塔望遠鏡の分光器室は最低温度が 10 度程度、最高温度が 26 度程度である。一方、天文機器資料館の最低温度は -1 度ほどになっており、最高温度は 30 度を超えている。湿度は太陽塔望遠鏡分光器室は 60%~70%に保たれている。天文機器資料館の湿度は全くコントロールが利いていないことが分かる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp